

平成30年(2018年)10月19日(金曜日)

「板状型あり得る」

前発
島開
三再

市、柔軟姿勢改めて強調

三島市は17日、三島

駅南口東街区再開発事業のイメージパースで示している高層マンションについて「確実に実施するということではない。板状型も十分あり得る」とし、今後の動向によっては現行案が変更される可能性があることを示唆し

た。

中郷文化プラザで同日夜に開かれた3回目の市民説明会で三枝邦昭計画まちづくり部長が述べた。建物の設計や導入機能は柔軟に対応するとした従来の姿勢を改めて強調した格好で、「こうした説明会での意見を踏まえ

る。(現行案は)まだ検討の余地があるということ」と理解を求めた。

公募で採用されたミサワホームを中心とする共同企業体(JV)のイメージパースではマンションは地上24階建てのタワー型。高さが99・5メートルあり、富士山の眺望や街並みの景観を阻害するとして一部の市民から反対の声が上がっている。